

岩田小学校の ESD 活動

<活動の概要>

- ・ 全校児童の 2 割以上の外国籍児童が在籍していることもあり、自国や相手国のよい面を互いに尊重できる心を育む教育活動を日常的に行っている。
- ・ 自国の文化や身近な地域について関心をもつとともに友達の子どもの文化にも触れることで、多文化共生について考える学習を行っている。
- ・ 「岩田大好き」という子どもたちの思いをもとに、ESD を「岩田校区のことを地域の人から学ぶ」学習活動と位置づけ各学年で行っている。

・ 活動の実際

① 地域とともに行う活動（全校児童）

「岩田どんどこまつり」という行事では、子どもたちが地域の方々とふれ合う機会を設けることで、文化や伝統を大切にすることを育てることをねらいとしている。地域の団体や職業の方々が体験講座を開き、子どもたちは講座を回って様々な体験を行う。

体験活動の講座は、PTA 役員、消防団、社会体育委員、老人クラブ、そして教職員など、多くの団体がそれぞれの特性を生かして講座を開講している。そして、運動や楽器演奏、作品づくり、放水活動、SDGs を学ぶ、などの体験を行う。どの講座も子どもたちが楽しく学べる魅力ある講座である。

また、職業体験の講座では証券マン体験や弁護士体験、動物のお医者さん体験など、ふだんできない職業体験を行う。体験を通して、自分の将来について考えるとともに、自分の生活には大勢の人が関わっていることに気づき、感謝の心を高める機会にもなっている。



岩田どんどこまつり
地域の方から学ぶ

② 多文化共生について考えたり、自分の思いを発信したりする活動（4年生）

4年生の「総合的な学習の時間」では、「多文化共生の町 岩田」について学習した。岩田団地に焦点をあて、自治会長さんやブラジル人、フィリピン人の住民の方の話聞くことで、共生するために努力してきた地域の人々の思いや行動について知ることができた。そして、お互いが気持ちよく生活するために大切なことを考えていくことで、多文化共生が自分たちにとって身近な問題だということを実感できるようになった。



団地の外国籍の方に話を聞く

③ 地域の憩いの場「水神池」を調べる活動（5年生）

5年生の「総合的な学習の時間」では、水神池を調べる活動をした。地域の方に水神池についてお話を聞く中で、昔岩田校区は、米作りが盛んで貯水池として水神池ができたこと、今は、農業では使われていないが、岩田校区民の憩いの場として多くの方が訪れていることがわかり、自分たちも水神池を大切にしたいという思いをもった。



水神池について話を聞く